

第9回

『呼吸と循環』賞 受賞論文 発表

山田智史論文 (呼吸器領域) ・ 林 孝和論文 (循環器領域) が受賞

本誌の前身である『呼吸と循環』誌では、『呼吸と循環』賞 (Respiration and Circulation Award) を設置し、当該年度の『呼吸と循環』誌 (1~12号) に掲載された投稿論文 (総説は除く) の中からオリジナリティのある論文を選考対象とし、原則として呼吸器領域1編、循環器領域1編に賞状と副賞10万円を授与致しております。今回、2016年 (64巻) に掲載された投稿論文が対象となり編集委員による厳正な審査のもと2編の受賞が決まりました。以下に、受賞論文と受賞者、授賞理由を発表します。

※現在、『呼吸器ジャーナル』『循環器ジャーナル』誌では投稿論文を募集しておりません。

論文名

「EBUS-TBNA で診断された放線菌による後縦隔膿瘍の1例」 (症例報告)

著者名

山田智史, 矢野利章, 青島洋一郎, 田中和樹, 小笠原隆, 笠松紀雄 (浜松医療センター呼吸器内科)



山田智史氏

掲載号: 64巻6号: 636-640頁

授賞理由: 放線菌症は比較的にまれな疾患であり、しばしば診断に困難である。診断には組織学的検査と細菌学的検査が必要であり、病変部位の組織材料の採取が不可欠である。本症例報告は、縦隔部位に認めた腫瘍性病変に対して超音波気管支鏡的針生検によって採取した組織で放線菌症と診断した1例である。近年、超音波気管支鏡の有用性が確認され臨床で広く使用されるようになった。このような状況下で診断的価値を確認する有益な症例である。よって、本論文は『呼吸と循環』賞に相応しい論文であると評価された。

論文名

「糸球体濾過量 (GFR) 推算におけるシスタチンCの有用性」 (研究論文)

著者名

林 孝和, 林 寿美, 林 友鴻 (医療法人修孝会林内科循環器科, 他)



林 孝和氏

掲載号: 64巻9号: 930-938頁

授賞理由: 慢性腎臓病の概念が提唱されて以来、推算糸球体濾過量 (eGFR) を求める機会が増えている。一般には血清クレアチニンを用いた eGFR_{creat} が利用されているが、血清クレアチニンは総筋肉量に比例するため筋肉量や代謝により eGFR が変化してしまう可能性がある。受賞論文は、わが国において血清シスタチン-C が検査可能となった2005年から約10年間、4,079例の血清シスタチン-Cを測定し、血清シスタチン-Cから算出した eGFR_{cys} と eGFR_{creat} を比較検討したものである。その結果、血清クレアチニンが1.0 mg/dl以下の“creatinine blind area”においても血清シスタチン-Cは鋭敏に大きく変動したが、逆に血清クレアチニンが3.0 mg/dl以上になると血清シスタチン-Cは横ばいとなった。GFRを推算する場合、慢性腎臓病の重症度によって血清クレアチニンと血清シスタチン-Cを使い分けることの必要性を示した点が、臨床的に極めて重要な研究であると評価された。